



こそだて通信

かしのき保育園

2011年度 No.4

== 叱ること ==

「子どもに泣かれるとかわいそうになって叱れない」

「叱るのは疲れてしまう。叱るともっとイライラするから叱りたくない」

「叱らなくても、いつの間にか困ったことをしなくなっているから、叱らなくてもいい気がする」身近に聞いた、あるお母さん方の声です。

叱ることがいいのだろうか、叱る必要があるのだろうか、そう迷いながら子育てをされているのでしょうか。子どもは叱ってもすぐに言うとおりにはありませんから、『叱る』ことの成果がすぐに表れないことも、お母さん方が迷ってしまう理由のひとつだと感じます。

『叱る』というのは、子どもの本気と向き合い、衝突することですから、そのために必要なこちらのエネルギーは大変なものです。

また、叱ることは叱る側の感情もマイナスの方向に揺さぶられます。そのとき、子育てに対する強い信念で自分を支えないと、叱った自分はよかったのか、子どもにとって叱ることはよかったのか、と時には自分を責めてしまうお母さんもいらっしゃるようです。

近年、『叱らない育児』『ほめる育児』という言葉をよく耳にします。

昔と違って、叱ることが育児の中でマイナス行為かのような考え方が、現実として世の中に浸透し始めました。確かに、『叱る』ことの中には、『親のイライラを子どもにぶつけている』『親の意向に沿わないことに腹を立てて怒っている』場合であることも多くあります。そういった『叱る』は子どもにとって良い影響を与えるとは言い難いでしょう。

けれども、『子どもが社会で生きていくためのルール』は、小さなうちから『真剣に伝え続けていく』必要があると思っています。特に『危ない事』『人を傷つける事』に関しては、「それはいけない」と『叱る』ことも必要ではないでしょうか。

小さなころから愛情を注いで育ててきたお子さんですから、お子さんとの間にはしっかりと信頼関係ができています。ですから、叱っても大丈夫です。

ただ、すぐに効果を期待しては裏切られ続けて疲れてしまいます。「言ってもできないだろうけど伝えていこう」というくらいの気持ちで伝えましょう。

そして、いつかその行動ができる日が来たら、その時はめいっばいの笑顔でほめてあげてください。

(臨床心理士 藤井あづさ)

お子さんのある困った振る舞いをやめてほしいと思ったとき、『叱ること』は子どもを育てる毎日の中で、たくさんのエネルギーを使うことなんだと感じます。

ある方が育児に関してこうおっしゃいました。

「子どもを育てる上で大切なことは、コミュニケーションの力をつけることだ」
金メダルをとった女子サッカーの澤選手。勝利の要因は、女性ならではのコミュニケーション能力を大切にしたからだとおっしゃっていました。

先日、娘が私にこう言いました。

「わたし、おかあさんのこといじめたいきもちになっちゃった」

「え？」

その前後を思い出してみると、お昼ごはんのあとにアイスクリームを食べたいと言った娘に、「アイスはさっき食べたでしょう」と言ったことです。どうやら、それで「いじめたいきもち」になったようなのですが、

(臨床心理士 藤井あづさ)